

高知県

第87号 2017年3月

農業技術センターニュース

目 次			
ダリアの高温期定植作型における育苗技術	… 1	統合環境制御装置の開発	… 4
酒造原料米用多収性有望品種の選定	… 2	青ネギの高温対策技術	… 5
ナス促成栽培でのオランダを参考とした温度管理の効果	… 3	ニラから採集したロビンネダニの薬剤感受性実態	… 6

ダリアの高温期定植作型における育苗技術



慣行 冷蔵7日
写真1 育苗後の「かまくら」の苗質



「ミッチャン」 「かまくら」

高知県のダリア栽培では、10～11月のブライダル需要や、12～3月の高単価期に多く出荷するため、7～8月に定植していますが、この時期に定植する作型では、育苗ハウス内が高温になり苗質をそろえることが難しくなります。そこで、7～8月定植の作型における育苗技術を開発するため、高温期の挿し穂の発根率を高める穂冷蔵の検討を行いました。

発根が悪い「ミッチャン」で挿し穂の冷蔵温度および冷蔵期間が発根に及ぼす影響を調査した結果、5℃で7日間冷蔵すること

表1 挿し穂の冷蔵温度および冷蔵期間が挿し芽苗の発根および生育に及ぼす影響

品種	試験内容	試験区	発根率 (%)	貯蔵中の腐敗数
ミッチャン	冷蔵温度	冷蔵なし	0.0	0
		2℃	0.0	8
		5℃	37.5	4
		10℃	25.0	4
ミッチャン	冷蔵期間	冷蔵なし	0.0	0
		2日	0.0	0
		5日	0.0	11
		7日	5.3	5

注1) 所定の処理をしたさし穂を2016年7月4日にナブラ養土Sを充填した72穴セルトレイに挿し芽し、所内ガラス室のミスト室で28日間育苗した。

注2) 冷蔵温度の試験では、冷蔵期間を7日とした。

表2 挿し穂の冷蔵日数が挿し芽苗の発根および生育に及ぼす影響

品種	冷蔵日数	発根率 (%)	根鉢形成度	一次根数 (本)	最長根長 (cm)
かまくら	冷蔵なし	95.8	3.6	7.1	4.4
	2日	87.5	3.0	5.5	6.9
	5日	91.7	3.6	7.8	8.7
	7日	100	4.1	6.4	6.8

注1) 5℃の冷蔵庫に所定の期間冷蔵したさし穂を2016年7月4日にナブラ養土Sを充填した72穴セルトレイに挿し芽し、所内ガラス室のミスト室で28日間育苗した。

注2) 根鉢形成度は0～5の6段階で達観で調査した。

で、慣行のミストのみの育苗に比べ、挿し穂の発根が良くなりました(表1)。次に、白色の代表品種である「かまくら」で冷蔵期間を検討したところ、5℃で7日冷蔵することで挿し穂の発根が良くなり、根鉢形成度も高くなりました(表2)。

今後は、切り花品質への影響について調査していくとともに、穂を冷蔵すると貯蔵中に挿し穂が腐敗するため、貯蔵方法等についても検討していきます。

(花き担当 渋谷淳平 088-863-4918)